

146
665

尾三氣象俚諺

愛知縣名古屋測候所

056786-000-2

特66-862

尾三氣象俚諺

愛知縣名古屋測候所

M34

CAN-0448



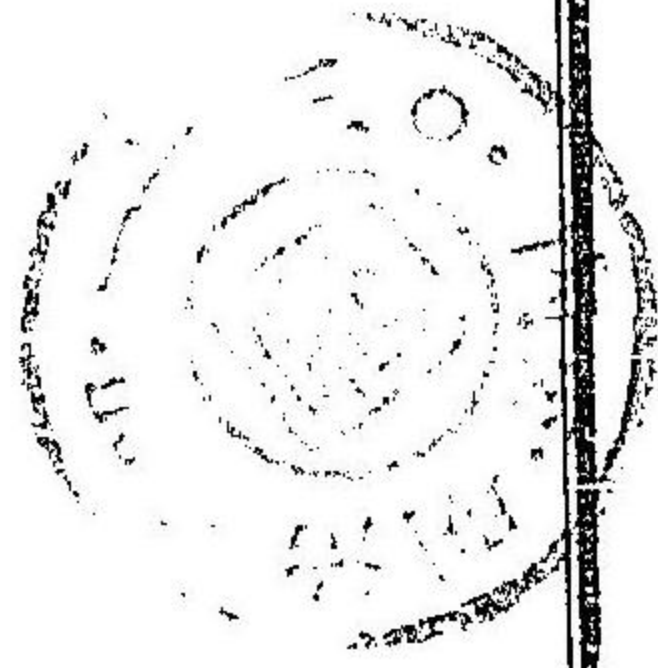
特6

8

氣象俚諺

前叙

日月星辰風雨露霜電雷地震天氣季候等ノ凡ソ天文氣象ニ關スル豫言俚諺方言俗話歌唄ノ類ニシテ古來傳唱スルモノ各地概テ之レナキハナシ仔細ニ之ヲ玩味スレハ自然多年ノ實驗ヨリ出テ暗ニ學理ニ役合シ復タ爭フヘカラサルモノ往々ニ鮮カラス爰ヲ以テ明治二十二年秋沿シ管内ノ各町村役場五百三十二ヶ所ニ照會シ僅々數所ヲ除ク外ハ悉ク回答ヲ得テ集蒐シタ



ル所ノ俚諺類約貳千ノ多キニ達セリ其内ニ於テ意味
ノ通セサルモノ重複ニ屬スルモノ彼是撞着ナルモノ
卑褻ノ嫌アルモノ等ヲ除キ類選シテ以テ茲ニ一小冊
子トナス是レ蓋シ古來氣象思想ノ狀況ト人事必要ノ
有様トヲ察スルノ資ニシテ亦々應用ノ一助タルモノ
ナシトセス

明治卅四年十一月 愛知縣名古屋測候所

一俚諺ノ大半ハ天氣ノ良否ヲ前言スルニ屬ス故ニ名古屋ニ於ケル
各月晝夜ノ晴雨一覽ヲ描出シテ卷頭ニ附ス
一又俚諺ノ内最モ廣ク通俗ニ傳唱サル、モノ二三ニ就キ名古屋ニ
於ケル既往十年間ノ事實ニ對照シテ其俚諺ノ適合スルヤ否ヲ試
ミ茲ニ附記ス

○朝虹ニ褰ヲ着ケヨ夕虹ニ傘ヲ乾セ

朝虹	當日雨天	百分ノ七十五
	當日晴天	全 二十五
夕虹	翌日晴天	百分ノ五十八
	翌日雨天	全 四十二

○朝霧ハ晴レ夜霧ハ雨

朝霧 ^ハ 霽レ 百分ノ六十八
 ^ハ 霽レバ 全 三十二

夜霧 ^ハ 雨 百分ノ三十八
 ^ハ 雨ナシ 全 六十二

○八專二郎ノ雨
(八專ノ入ヨリ二日ヨリニ雨降レハ其期間雨多シト云)

五日以上降雨 百分ノ八十二

五日以下降雨 全 十八

○夜上リノ天氣ハ雨近シ

二日以内ニ來雨 百分ノ四十七

三日以内ニ來雨 全 三十二

四日以外ニ來雨 全 二十一

○甲子ノ雨

(甲子ノ日ニ雨アレハ七十五時(約六日間)降續クト云)

三日以上降雨 百分ノ六十八

二日以下降雨 全 三十二

○日月ノ暈ハ雨近シ

翌日雨雪 百分ノ四十五

日暈 翌日曇 全 二十

翌日晴 全 三十五

翌日雨雪 百分ノ四十一

月暈 翌日曇 全 二十

翌日晴 全 三十九

○地震ハ天氣ノ變リヲ兆ス

六時間後ニ
變リシモノ 百分ノ五十一
變ラサリシモノ 全 四十九

—
雨 雪

要量ニ拘ハラズ雨雪六時間余ニ亘ルモ
ノヲ云但六時間以内ノ雨雪ハ平均要量
ニ隨テ晴又ハ曇ト見做ス

名古屋各月晴雨一覽

(數日均平八字數)

天氣區別



晴 曇 雨雪

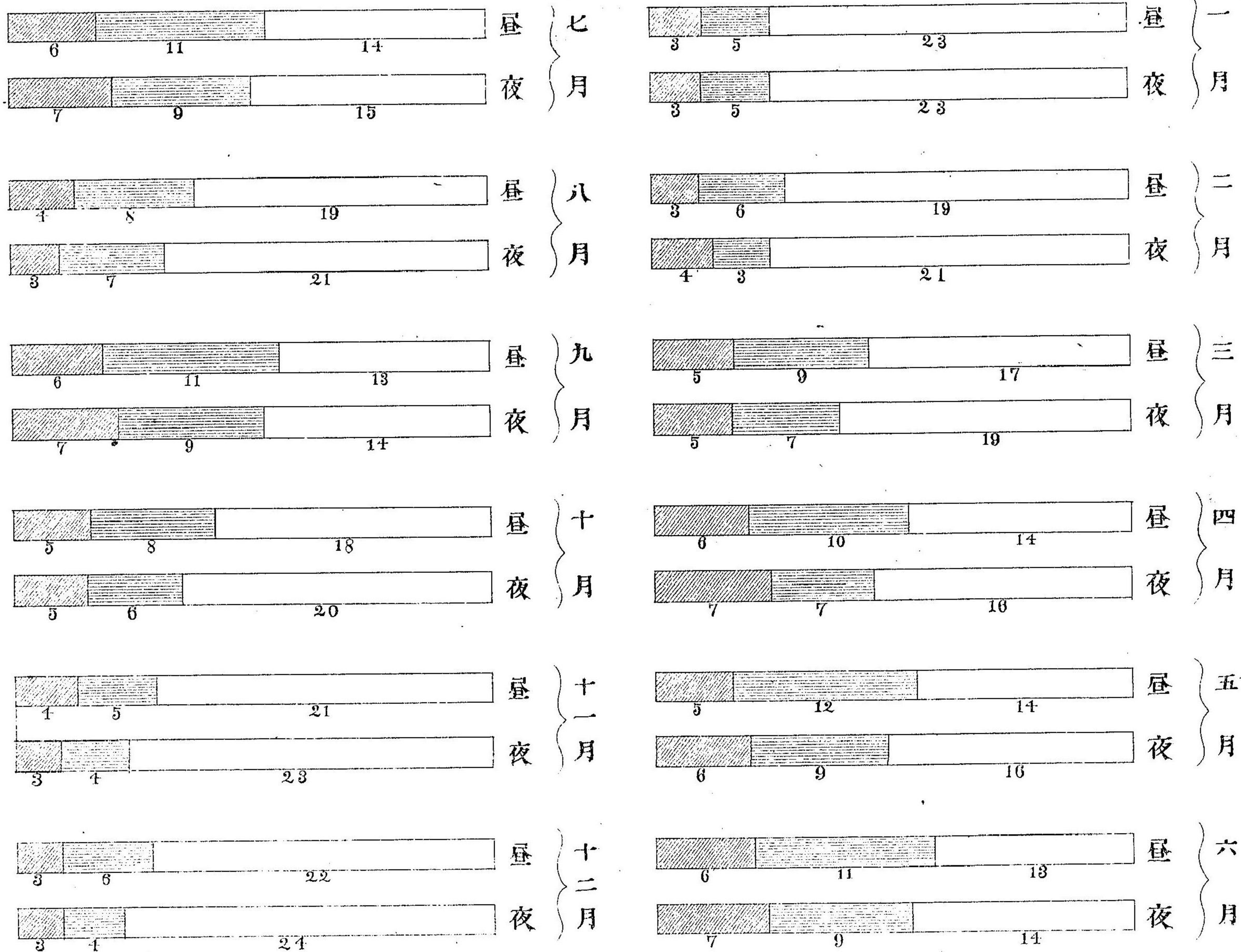
平均曇量十分ノ七以下ノモノヲ云

平均曇量十分ノ八以上ノモノヲ云

曇量ニ拘ハラズ雨雪六時間余ニ亘ルモ

ノヲ云但六時間以内ノ雨雪ハ平均曇量

ニ随テ晴又ハ曇ト見做ス



尾三氣象俚諺

晴之部

一鳩、空中に舞ふときは天氣晴れ

一鳩、鳩を呼ぶは晴れ

一雨天の薄暮に鳩の鳴くは晴ると云ふ

一鳩の雨中に鳴くは雨霽るゝなり

一蜻蛉、屋内に入れば晴天

一鳶鳴き、鳩鳴くは晴るゝの兆なり

一朝鳶鳴けば其日に雨あり夕に啼くは晴れと知れ

一雨後に鳶の舞ふは快晴なり

- 一 赤崎峠一處に群集ときは日和なり
- 一 月暈内に星あるときは晴れ無きときは雨
- 一 星遠く見ゆれば晴れ近ければ雨
- 一 日暮東方に虹立てば翌日晴れ
- 一 入り日照り輝くときは翌日晴天
- 一 朝虹の上より消ゆるときは天気となり下より消ゆるときは降雨
- 一 白雲南方に當り東西に渡れば天気よし
- 一 晩の早露は日和なり
- 一 夏秋の候朝露多きは晴れ
- 一 朝、草木の露早く散れば晴天なり又八時を過くるも散らされば

- 一 即日雨なり
- 一 夕刻西南赤く焦れ、ば翌日は晴れ(春、夏)
- 一 日の入り焦れ翌日晴れ
- 一 夕焦れ西南に甚しきときは晴れ
- 一 如何なる霖雨中にても鬼門返しに朝焦あれば快晴す
- 一 木曾川出水し多度山見ゆれば雨晴るゝなり(中島郡)
- 一 河水漲溢れ井水嵩み「そぶ」水清くなるときは雨晴るゝあり
- 一 又變して強風となるあり
- 一 鳴りもの、音能きは晴なり
- 一 午后四時頃より漸次西山切上り戌亥風にて晴るれば數日晴天
- 一 八ツ出光りに笠を脱げ(晴となる)

- 一 夕刻河 水 暖なれば翌日晴 いづがたかはのみづあたたか いくじつはれ
- 一 夕刻早く草葉に露を見るときは翌日晴 いづがたはやく くさのほは つゆ みる み いくじつはれ
- 一 庄内川 出水すれば雨霽れる(西春日井郡) しやうないがははじゆつすい あめは
- 一 雨中海濱に於て波打つ際、波枕(波の力にて海岸の土砂角立)を見れば晴近し う ちゅうかいひん おひ なみう きは なみまくら (ちたる所の出来るを云ふ) を見れば はれちか
- 一 降雨の際雉子啼けば霽れる あめふり ききき せいな は
- 一 月暈出づれば晴れ つきのかさい は
- 一 霖雨にても午の日至れば晴る若し晴れざれば猶ほ降り續くの憂あり ながあめ うま ひいた はれ も は 猶ほ 降り 續く の 憂
- 一 夏季降雨中に蟬啼くときは忽ち晴れる なつ あめふりのうち せみな はねありかん たちまは
- 一 羽蟻群をなして飛ぶときは雨霽るなり はねありかん あめは

- 一 雲雀高く上るは晴天なり ひばり たか あが せいてん
- 一 蟻島畔の低き所に集合は晴れ ありはたけあぜ ひく さころ あつまる は
- 一 六つ時雨に傘持つな(快晴となる) むせきあめ かさも
- 一 九つあがりは簀笠を二階へ揚げよ(晴れ) くのあがり ひつじさあ みのがさ かい あ
- 一 電光 坤に見ゆれば晴れ いなびかりひつじさあ み
- 一 極樂蝶早朝より出づるは晴天 ごくらくてうざうちよう ありつち も
- 一 蟻土を持ち出すときは天気晴れる ありつち も だ
- 一 雲の朝日に向て行くは必ず天気好し くも あさひ むかづゆ かなら てんきよ
- 一 朝霧は雨、夕霧は晴れ あさぎり あめ いうぎり は
- 一 朝霞は近日雨、夕霞は晴れ あさあすみ ちかきうちあめ いうあすみ は
- 一 西風は快晴、東風は雨となる にしのかぜ くわいせい ひがしのかぜ あめ

- 一 雨間に夕日照るは好天氣になる兆候
- 一 夕日の小日は好天氣(小日とは雲間より照らすこと)
- 一 朝虹に叢を着けよ夕虹に傘を乾せ
- 一 辰巳風は暴れ強く戌亥風は好天氣になる
- 一 雨強きも北西より頻りに降るときは快晴の前兆
- 一 太陽又は大陰の西へ傾きたるとき暈あるは露れる
- 一 霖雨のとき沙替りより三日目又は七日目に晴るれば照り續く若し晴れされば七日目の沙に晴れるも亦同し(愛知郡)
- 一 卯の刻の雨に傘持つな(曉天の雨は程なく晴れるを云ふ)
- 一 拂曉に北東より吹く風を明け寅といひ晴天なり
- 一 秋、北方の露るゝは天氣なり

- 一 春は西に雲なければ雨降らず秋は北に雲なければ雨降らず(海東郡)
- 一 夏、南風強きは雨なれども南風上りとして晴れたるときは晴天續く
- 一 春は南に秋は北に雲あるは降雨雪、雲なければ晴れる
- 一 井水の非常に増加するは日和なり
- 一 西の山出づれば晴れる(海東郡、海西郡、愛知郡)
- 一 木曾川洪水にして早く減水せざるときは天氣長く宜し
- 一 雨日、西風起り風に伴はれ西より強雨來るを快晴の魁なりと云ふ
- 一 西方の河瀬の能く聞ゆるは晴天なり、東方の川瀬能く聞ゆるは雨天の兆なり(丹羽郡)

- 一夜の晴れ上り雨近く、晝晴れ上るは天氣續くなり
- 一日の出づるとき雲の北へ行くと劇しきときは雨近きにあり又南の方へ行くと劇しきときは日和なり
- 一滿天曇れども入日るとき未申の方へ焦れ込むときは翌日晴天なり
- 一雷鳴して未申の方へ入るときは霖雨となり、又丑寅の方へ入るときは好天となる
- 一作物遠く見ゆるは晴
- 一北斗星、光り冴ぬ時は雨近し又能く冴る時は日和と知れ
- 一秋、川の瀬の鳴るは翌日快晴なり(寶飯郡)
- 一坤方にて波鳴れば西風にて天氣となる

- 一日暮其村最高の峯に霧懸かるは翌日晴れ(八名郡、北設樂郡)
- 一飯粒の器物に粘着するは晴れの兆なり
- 一長雨の末に虹川を跨くは翌日晴なり(北設樂郡)
- 一秋の日和は山を見よ、山霽れは天氣好し
- 一遠山青く見ゆれば雨霽るゝなり
- 一蚯蚓鳴けば天氣霽るゝなり
- 一曇天にして入日るとき四方明かなるは快晴の兆
- 一梟、日陰にて啼くときは翌日晴れ
- 一巴川の水音聞ゆるは晴れ(寶飯郡)
- 一美濃國惠名山及御嶽山の霧晴るゝときは快晴なり(尾張)
- 一野林村に一大岩石あり其中腹に凡そ一尺位の條あり夫より蛇、

からだ 一部分を現はすときは必ず二三日間に風雨あり整すれば晴なり(寶飯郡)

一雨天に煙草の乾き居るは晴天の兆なり

一降雨中西風の吹くは晴る、兆なり

一霖雨中、土臺石の乾くは晴る、の兆なり

一土用の空上り(夏日土用中は上り雲多)

一籠の煙もや／＼として立登るときは日和なり

一東に向き立雲あれば晴天續く

一日暮に「ぬかご」の春くは(群れの上下)は翌日天氣好し

一山近く見ゆるは雨近し遠く見ゆるは晴れ(海東郡、海西郡、愛知郡)

一西方の山近く鮮明に見ゆるときは又は山腹以下に雲見之山頂の顯

る、ときは雨なれとも山頂に雲朦朧たるは晴天と知べし(中島郡)

一春、西風吹けば快晴

一春は東風夏は南よ秋冬は西風なれば日和とぞ玄れ

一舞風西より東へ吹くときは日和なり又東より西へ南より北へ吹

く時は雨と云ふ

一朝霧の西より東に行くものは晴れ

一霧昇れば降り下れば晴となる

一快晴の朝霧り

一霖雨の後、濃霧あるは晴れ

一朝霧山へ引くときは天氣となる

一霧北山に引けば天氣又南海へ引けば雨(寶飯郡)

- 一連日の雨天に朝早く霧の懸るは晴なり
- 一風雨中、蜘蛛新に巢を構ふは快晴近きの兆なり
- 一蜘蛛の巢明に見ゆるは雨晴れるなり
- 一鶏、早く時ねぐらに就くときは霖雨中にても翌日晴なり(丹羽郡)
- 一長雨のとき鶏、高く登り且鶏冠色赤きときは晴天となる
- 一鶏、高處たかねに上り鳴くときは晴れ
- 一翳雲は晴天續く
- 一翳雲の晩に出づるは翌日晴天なり

雨之部

一雲の北西風に逆らふは六七時間に雨

- 一降雨の前日は諸病必ず悪し
- 一銀河に濃雲懸るは翌日雨
- 一霜三日續けば雨(海東郡)
- 一夕日の青きは風、光なきは雨
- 一月出の赤色は雨
- 一晴天に横雲南方より西山に掛るは雨(海東郡)
- 一雨晴れて西風強きは雨復た近し
- 一星高く見ゆるときは晴れ天低く星近く見ゆるときは雨近し
- 一夜上りの天氣は雨近し
- 一銀河鮮明なるは雨
- 一雨後星近く見ゆるは雨間なり

- 一 雨後道路等の乾き早きは雨近しあめのちだうろなを かは はき あめちか
- 一 夏南風強きは雨なれども南風上りとして晴れたるときは晴天續なつみなみかぜつよ あめ みなみかぜあが は せいてんついで
- 一 夏辰己より戌亥の方へ雲出つれば雨近しなつたつみ いぬる ほう くもし あめちか
- 一 夏北風吹けば必ず降雨なつはきたかぜふ かなら あめふる (海東郡)
- 一 八九月頃 曉天北方より明け渡れば暴風雨、他の時なれば雨はつこころあけあきたのはう あ ち ほうふう、ほか とき あめ
- 一 春は南に秋は北に雲あるは降雨、雲なければ晴れはる みなみ あききた くも かう、くも
- 一 竈の烟下へ垂れ向くときは雨かまど けふりしたた たむ あめ
- 一 物音近く聞ゆるは雨ものおとちか きこ あめ
- 一 「アカギレ」の痛み或は「シモヤケ」の痒きは雨いけのうへ こほ はや さ あらひ シモヤケの かゆ あめ
- 一 池上の凍り早く解くれば翌日雨いけのうへ こほ はや さ よくじつあめ

- 一 山近く見ゆるは雨近し遠く見ゆれば晴れやまよか み あめちか ちほ ちほ みる は (海東郡、海西郡、愛知郡)
- 一 近江の伊吹山と美濃の養老山の中腹に横雲有は雨あふみ いぶきやま みの ようらうやま ちゅうぶく よこぐもあは あめ (海東郡、海西郡)
- 一 燈火の先き動き俄かにハゼル音するときは明日風雨と知るともしび さき うご にはわ せつおと あしたのふうあめ
- 一 鳴物の音牙ゆるは翌日晴れ東方に近く聞ゆるは雨なりもの おとぎ よくじつは ひがしのほうあめ きこ あめ (海東郡、海西郡)
- 一 煙の横に引くは雨けふり よこ ひ あめ
- 一 遠山朦朧として認め難きは降雨近しとほやまもうろうろ みて みた かく、ちか
- 一 雨歇み竹樹の露未だ落ちざるに日光輝やくは又雨あめや たけき つゆいま おちざるに じつこうかが やく またあめ
- 一 蟻宿替するとききは雨と知るへしありやどがへ あめ あめ
- 一 雨蛙の鳴くときは天氣替るあまがへる な あめ 天気かわ
- 一 栗栖村に於ては猿か群をなし水邊に出つれば必ず翌日雨降るくりすむら おひ まるむれ すいへん 出つれば かなら よくじつあめふ

(丹羽郡、葉栗郡)

- 一 雨後に地面の水引き能きを雨近しと云ふ
- 一家根裏の蜘蛛下るときは雨近しと云ふ
- 一 羽蟻群飛して地上にあり、小兒群遊の聲夕刻に喧く又は鳩の聲繁きは降雨の兆なり
- 一 白螢(しほたると云ふ暮秋)の群飛するは雨の兆なり
- 一 入日の雲黒く北へ焦れ込む時は雨又赤く焦るゝは好天氣なり
- 一 蝶の室内へ舞込むときは雨近し
- 一 秋日「インノコ」多く出づる時は雨天となる
- 一 夜の晴れ上り雨近く、晝晴れ上りは天氣續なり
- 一 朝鳩鳴て川越するな雨降る
- 一 春山の近く見ゆるときは近日に雨ありと云ふ

- 一 春は西夏は南秋は北いつも東風にて雨ふると知れ(八名郡)
- 一 山の中腹より以下に一帶に霧を引くときは雨の兆なり
- 一 湧出づる清水の急に細るは雨の兆なり
- 一 朝露滴の間近ければ其日雨降り稍遠ければ雨稍遠し
- 一 馬、身振して耳ばたくと鳴るときは雨降る
- 一 ナゴ山に引けば晴となり海に引けば雨となる(寶飯郡)
- 一 雨天後水氣の蒸發甚しきは近日雨なり
- 一 燈火紅色にして丁子出来るは雨
- 一 戌亥藤の(藤の花の如き雲成)出つるときは三日以内に雨と云ふ
- 一 蛭を一升入の壘に入れ置くときは常に底に沈むも雨氣を催すときは上に踊り上れり

- 一 水鳥樹木に息ふときは雨降るなり
- 一 常に聞かざる水音東に聞くは雨(寶飯郡)
- 一 夏の夕方立雲に帯を引くは近日雨
- 一 朝南の方に當り烟の如き雲山際を覆ふは雨なり(寶飯郡)
- 一 卯の時の雨に傘を用ゐるす(長く降らざる意)
- 一 星の多く顯はれ燦然たるは雨近し
- 一 西方に帶雲見ゆれば二三日内に雨(寶飯郡)
- 一 白壁濕れば雨の前兆
- 一 地上に散在する蟻の形を見ざるときは多く雨
- 一 星の近く見ゆるは雨
- 一 螢家中に入るときは近日雨

- 一 金の道具類を研き置き早く錆を催すは雨
- 一 猫、青草を食み又は草葉の露を嘗めるは雨の兆
- 一 鳥又は雀水浴すれば雨近し
- 一 秋、蛙寄合鳴きすれば翌日雨
- 一 羽蟻出づれば雨近し
- 一 猫、耳の後ろより洗面の状をなすときは雨近し
- 一 朝、郊外にて「ブト」多きときは雨近し
- 一 麥稈を焚きて音小さき時は雨近し
- 一 鳥の啼き聲悲哀に聞へたる后ち三日目に降雨す
- 一 鳩啼き且水鳥木に登るは雨の兆
- 一 蚊の刺し方酷しきは雨の兆なり

- 一 蚯蚓地上に出つれば雨近しあめちか
- 一 春季魚類飛躍するは雨の兆あめ きざし
- 一 鴉日没後に食するは翌日雨よくじつあめ
- 一 鳩雌を趁ふは雨あめ
- 一 風無く糠虫群をなし又は白子虫飛行するは雨の前兆あめ きざし
- 一 鴉の頻りに群り啼くは風雨の兆なりきざし
- 一 疾病者頭痛の氣味を催すは雨の前兆あめ きざし
- 一 陰曆五月廿八日には多く雨あり俗に虎御前の涙雨といふなみだあめ
- 一 宵の時雨は翌日なしよくじつ
- 一 煙草の濕るは雨の兆なりあめ きざし
- 一 田に青ソブ浮くは雨なりあめ

- 一 山腹より出づる清水太くなれば近日雨あかきひあめ
- 一 風たえてあまりのどかにかすむそらの夕は雨にならぬ日ぞなきいふべあめ
- 一 日月の暈は雨近しあめちか
- 一 北極星の光り衰る様に見ゆるは近日雨又輝く様に見ゆれば晴あかきひあめまたかや よう み
- 一 飯櫃の濕るとききは雨あめ
- 一 星色白き光多きときは近日雨あめ
- 一 旭かくした其日は雨か、ふらにや必ず風がふくあめ
- 一 旭日横雲より出づるとききは其日雨降るあめ
- 一 連日の降雨に夕陽朱の如く見ゆあめ
- 一 戌亥より辰己に向け白雲出づれば必ず雨あめ

- 一 鬼門返しと稱し丑寅の方に熊手形の薄雲顯はるれば必ず翌日晴天にして翌々日は雨天なり
- 一 夏の日出に露落ち遅き朝は雨近し
- 一 雲行、風に向へば雨
- 一 井水又は川水溜水等俄に減すれば翌日雨
- 一 伊吹山の南邊に雲懸れば雨としるべし(尾張)
- 一 石類の濕り又は塗り物の乾くは雨なり
- 一 埋込みたる唐臼の濕氣を帶ぶは雨なり
- 一 風なきに屋根裏の煤落つるは雨
- 一 北西の風吹く日薄雲現はるれば二日内に降雨す
- 一 東風強ければ雨

- 一 辰己風吹けば近日雨
- 一 春冬の際に未申の方位より風吹けば雨又は雪となる
- 一 満天雲無く晴れ過ぎたるか如く見ゆるときは三日内に降雨す
- 一 朝北方霽れて御嶽山明瞭に見ゆるは雨近し(西春日井郡)
- 一 北山の晴と姑の笑を油断するな(降雨)
- 一 夜中蠅出づるときは雨近し(知多郡、西春日井郡)
- 一 越前(北西)こがれは早りにて伊勢山(南西)こがれは雨なり(尾張)
- 一 螢の高飛は雨と知るべし
- 一 陰曆廿八日の降雨は雨別れと稱し翌月降雨多きの兆
- 一 遠參太平洋中の潮音巽に聞ゆれば雨にして漸々西方に轉し坤に至れば空晴れる(三河海邊)

- 一 遠州灘に立雲現はるれば近日雨せんじゅうなだ たてくもあら せんじつあめ
- 一 夕日のこひ南に顯はるれば雨にて北方に現はるれば晴ゆうひ こひみなみ あら はるればあめ きたのはうあら はれ
- 一 脚に於て遠景鮮明に見ゆるときは近日雨あしに おひ せんけいせんめい み きんじつあめ
- 一 立雲に前帯は近きに雨あり後帯は雨遠したちくも まへおび ちかか あめ うしろおび あめとほ
- 一 霜多くして風なく旭紅なるときは雨の兆しもおほ かげ すすきひくれなひ あめ
- 一 南東方位に雲起り断へざるは雨にして北西の雲は風なりみなみひがし のほろくもおこ た たらへざるはあめ きたにし ぐも かせ
- 一 夏季は降雨前に冷氣を覺ゆ冬季は暖氣を覺ゆなつぎ かう、まへ れいぎ おぼ ふゆぎ だんぎ おぼ
- 一 入日の高入は日和の變るものと知るべしいひひ たかいり ひより かは
- 一 月の出に色白きは雨赤きは旱りなりつきで いろしろ あめあか ひて
- 一 月の入に光の強きは雨にて月色白きは風又横雲多きは風の吹き出す兆候つきいり ひかりつよ あめ つきいろしろ かせまたよこおほは かせ ふきだす兆候

- 一 冬季の雨と初聲に泊りなしふゆのき あめ はつむこ
- 一 入梅に遠山晴るゝは雨にこばい とほやまは あめ
- 一 梟鳴けば三日目に雨ふくろ な かめ あめ
- 一 春季海面油を流せし如くなるときは雨近しはるのきかめんあぶら なが ごとく あめちか
- 一 魚類多く腹部を現はすときは近日雨うなるとおほ ふくぶ あら ちかきひあめ
- 一 蛎の空中に群り飛ぶは雨なりあぶたに くうちう ぐらびと あめ
- 一 四つデツカリ(日光の輝に笠脱くな(降雨)
くわを云ふ)かきぬ
- 一 朝虹に蓑を着けよ夕虹に傘を乾せあさにしじ みのかさ つつ いうにしじ かさ ぼ
- 一 秋季日出前に東方焦れ白くなるときは風あり又黒くなるときは雨の兆あきのはいで まへ ひがしのはうこが しろ かせ またくろ あめ きざし
- 一 夏季泉水又は田の水乾き早きときは三四日内に雨ありなつのきせんするまた た みづかわ はや にちうち あめ

- 一 夕日焦れて後ち明るきときは晴れ暗きは雨なり
- 一 夏三日月の朔日雨降れば其年降雨多し
- 一 旭日紅輝を放ち后ち白色に變するは雨
- 一 月の出、日の入りに日暈又は月暈あるは雨
- 一 午砲の音聞えされば曇天と雖とも雨降らず(中島郡)
- 一 河水泡立ちて流るれば近日雨
- 一 日暮河水の冷かなるは翌日雨の徴なり
- 一 大河に水煙立ては雨近し
- 一 庄内川の瀬音高く聞ゆるときは雨なり(東春日井郡)
- 一 海岸釣漁魚少きは雨
- 一 鰯飛んで水上に躍るは雨

- 一 コガメと稱する鳥海より陸上に來れば翌日雨降る
- 一 鼯鼠頻りに地を穿つは降雨の徴
- 一 旭日に雲覆うは俗に通日と云ふ其日降雨あり
- 一 小春日に鐘近く聞ゆるは天氣變ると云ふ
- 一 遠隔の物音近く聞ゆるときは雨近し
- 一 鳶の地上に下り居るは雨の兆
- 一 朝虹早く消ゆるときは其日午后降雨あり
- 一 黄昏前に雀の騒くは翌日雨又は雪なり
- 一 伊吹山及伊勢山に雲懸れば近日雨
- 一 朝露甚しき時は舊二十四時以内に降雨す
- 一 夜霧は雨、朝霧は快晴

- 一 朝霧に尙ほ晴れぬは雨近しあさぎり な ほは は あめちか
- 一 秋季霧、山を擁すれば天霽れ海を涉れば降雨すあき、きり やま を 擁 すれば てんは うみ を 渉 れば 降 雨 す
- 一 秋夜の霧は三日目に雨あきのよ きり は 三 日 目 に 雨
- 一 霧西北に降り行けば翌日雨きり に 西 北 に 降 り 行 け ば 翌 日 雨
- 一 山腹より上に霧かゝれば近日雨さんぷく より 上 に きり かゝ れ ば 近 日 雨
- 一 朝霧の東より西へ降り行くものは雨あさぎり の 東 より 西 へ 降 り 行 く も の は 雨
- 一 朝の焦れ南より薄くなるは風北よりすれば雨あさ こが み な み より うす なる は 風 北 より ず れ ば 雨
- 一 北西より南東へ筋雲さすを沖くじと云ひ雨なりきたにし より 南 東 へ 筋 雲 さ す を 沖 く じ と 云 ひ 雨 な り
- 一 朝焼けは其日の雨、夕焼は明日の日和と云ふあさやけ は 其 日 の 雨 、 夕 焼 は 明 日 の 日 和 と 云 ふ
- 一 朝、南東赤く焦るれば近日の雨あさ、南 東 赤 く 焦 る れ ば 近 日 の 雨
- 一 越前焦れに傘ほすな越前 焦 れ に 傘 ほ す な (北方の焦れは明日雨)

- 一 大霜して暖なるは雨となるおほしも あたゝか なる は 雨 と なる
- 一 朝霜折れすれば雨近しあさこしも 折 れ ず れ ば 雨 近 し
- 一 天氣晴朗の日ぬかごてんき せいらいう の 日 ぬ か ご (小) 多く群集せば翌日雨おほ く 群 集 せ ば 翌 日 雨
- 一 蛇、高木に登るは雨なりへび たかきき の ぼ る は 雨 な り
- 一 東方に沖鳴を聞くときは雨、又西方なるときは晴天ひがしのはう おきなり を 聞 く と き は 雨 、 又 西 方 な る と き は 晴 天
- 一 天氣晴朗温暖の日沖鳴てんき せいらいう かんたん の 日 おきなり (太砲の如き音) あれば翌日必ず雨あ れ ば 翌 日 必 ず 雨 (中島郡)
- 一 鶏の晩に部屋へ早く付くときは霖雨と雖とも翌日晴れ又晩に遅く付くときは雨なりけい の 晩 に 部 屋 へ 早 く 付 く と き は 霖 雨 と 雖 と も 翌 日 晴 れ 又 晩 に 遅 く 付 く と き は 雨 な り
- 一 南々東に海鳴るは雨近しなんくさう とうみな うみ なる は 雨 近 し (丹羽郡)
- 一 朝虹早く消ゆるときは其日午后雨と云ふあさにじはやく き ぬ る と き は 其 日 午 后 雨 と 云 ふ
- 一 本宮山に雲横れば降雨近日ほんみやまに くもよこたは 横 れ ば 降 雨 近 日 ありあ り (三河東部)

- 一 朝露稀少なるときは雨近きにありと知れあまつゆきせうすう
- 一 數十日旱魃に乾坤の方より卯の方へ横雲を引くときは近きに雨ありと云ふあま
- 一 雨を催すときは土地乾くものなりあめ もよほ
- 一 朝鶯啼けば其日に雨あり夕に啼くは晴れと知れあさこびな
- 一 琴三味線の音冴る時は雨と知れことざみ
- 一 快晴一点の雲なきときは三日の内に雨降るへしくわいせい
- 一 濱燕、里に登るときは近きに風雨ありはまつずめ
- 一 蟻卵子を持って群行するときは近きに雨ありありのたまご
- 一 霧、北山に引けば天氣又南海へ引けば雨きり
- 一 長閑餘れば雨となるのやか

- 一 雨天より晴天となるとき雨垂永く落つるは雨に近しうてん
- 一 魚の水上に浮ぶは雨の兆なりうを
- 一 虫の多く夜中に出づるときは雨近しなめくじ
- 一 虹、河を跨くは雨なりにじ
- 一 雨後河流の一時に減水するは又雨近きの前兆なりうご
- 一 夕焼して后黒ければ雨又白ければ晴ゆうやけ

曇天之部

- 一 郊外に飛蝶多きときは翌日曇天なりかうがい
- 一 夏の朝、露少きは曇りなつ
- 一 西風強ければ翌日曇天にしかぜつよ

- 一 春、西風強きは曇り
- 一 朝虹ば曇り

風之部

- 一月の出に白薄の暈あるは風
- 一月の出に雲多きは風
- 一月の入大に見ゆれば雨、動き或は白色に見ゆれば風、雲に入れば雨、横雲あれば風
- 一 虹、西方にあれば東風起り東方なれば西風起る
- 一 辰巳に薄黒き立雲あるときは東風起るの兆
- 一 曉天の焦れ満天に游漫するは風の兆

- 一 旭の黄色にして下面に雲の翳くは北風の前兆
- 一 南風 暖にして臭氣あるは強風(海西郡)
- 一 天氣朦朧として蒸熱く潮泡多きは風
- 一 朝、東天に黒赤き雲あれば強風
- 一 黄昏、西に黒雲あれば翌日風
- 一 己卯の日に風吹けば春は大風、夏は稲に當り、秋は水寡く、冬は寒氣強し
- 一 秋の曉天、東方より北へ焦るゝは風
- 一 燈火平日より明るきときは翌日風
- 一 鍋釜の尻の煤、燃ゆるときは西風起る
- 一 稻葉の卷葉するは強風

- 一 草木の葉を虫が巻きたるときは風かぜ
- 一 蜂、建物の北影に巢をかける年は強風吹くつよきかぜふ
- 一 夏の風は電の方より吹き秋の風は電の方に向て吹くいなびかりほうむかつか
- 一 筭の高根張る年は強風ありと云ふたけのこたかねはつよきかぜ
- 一 入月に風なし（廿日頃より五日頃迄は風少く雨多し）
- 一 晴夜、星の閃くときは明日風ありはれよほしひらめみゆうにめかぜ
- 一 流星多ければ風なりりうせいおほ
- 一 大鼓、雨天なるも張破れるか如くかんくたいこうてんはりやぶと鳴る時は強風必ず吹くなととききやうふうかならず
- 一 海岸の潮水湯の如く暖なるときは強風と知れりかいがんしほみづゆどきあたか
- 一 百舌鳥來れば後ち強風なしもつづきたのつよきかぜ

- 一 群れ鳴、東に渡れば西風強しむれなむひがしわたにししかぜつよ
- 一 鯨の發生多き年は強風多しなまづはつせいおほとしつよきかぜおほ
- 一 夕刻に千鳥啼きて山に揚るは強風ゆづりたちどりなやまあまつよきかぜ
- 一 旭日青色又は月色紅輝若くは星光赤きは強風あさひあをいろまたつきいろこうきもしほしひかりあかつよきかぜ
- 一 月暈の缺けたるは風にして其暈の欠けたる方より吹き出すつきかさかほのかそのかさかほうよりふきい
- 一 日の入の色殊に赤きは西風強しひいりいろことあかにししかぜつよ
- 一 旭日及ひ天空黄赤色なるは強風あさひおよそらきいあかいろつよきかぜ
- 一 曇天なるに朝日映すれば雨又は強風となるどんてんあさひにいあめまたつよきかぜ
- 一 寒前に雲あれば半夏生迄に必ず東風ありかんまへみぞれはんげしやうまでかならひがしかぜ
- 一 伊吹山に雲懸れば西風吹くいぶきやまくもかゝにししかぜふ
- 一 夏季多度山に雲現るれば強き南風吹くかきたどさんくもあらはつよみなみかぜふ

- 一 春風は日切り(其日限りにて吹き)
ひがしかぜあをささ つかせ
- 一 東風青嗅きは強風なり
しほみづきう み きた
- 一 潮水急に満ち来れば後ち風強し
うせいにし ほと きた
- 一流星西に走れば翌日西風吹き東に行けば東風なり
りゅうせいはいし ほと
- 一 雲、銀河の如く中天に横ときは西風強し東又は西より半天
くも あまのがは ちうてん よこぎる
- 一 到るときは(方言片)風稍穩なり(時としては無風なり)
いた
- 一 陰曆除夜暗黒中一方薄暗なれば其方位より翌年強風吹くべし
いんれきぢやあんこくちう ほううすくら
- 一 西方に當り雷鳴數回あるとき特に鳴ること一回を聞けば后ち早
はしほう あた らいめいすくわい
- 風來る
- 一 蚤の騒きたる翌日は多く西風なり
のみ さは
- 一 秋冬季夜間東方に雲なくして電光あるときは西風又は北風あり
あきふゆの や かんさうほう

- 一 日没のとき色紅なるは風、青色も風にて雲の乱るゝも風、又日
にちぼつ しるくれない
- 没後西天赤く漸次薄くなるは晴れ
ぼつご にしぞらあか ぜんじうす
- 一 風藤出づれば風(西)(坤より長に向ひ藤の花の如き雲をいふ)
かぜふぢい
- 一 舊曆正月八日に風吹けば八八日吹く(年中風吹多し)
きうれきしやうがつ か
- 一 二百廿日頃拂曉寅の方位より吹く風暖なるときは辰己の方位
に廻り風強し
まは
- 一 秋雨に蒸熱きは強風なり
あきあめ むしあつ
- 一 満潮の時吹出したる風は干潮まで止まず
まんちやう ときふきだ
- 一 十二月八日に風吹けば翌春風多し
じふにがつ かに
- 一 西山の頭に薄雲纏ふ日は風に變ず
にしやま かしら うすぐもま

暴風之部

- 一 鳥の巢高き年は暴風少く低き年は暴風あり
- 一 玉蜀黍に上根(地上に現は)生したれば秋暴風と知れ
- 一 藍の葉に節の多き年は暴風あり
- 一 鳥雀空中に噪き魚類躍り蟻穴を出て蛇日向に出るは皆風雨の前兆なり
- 一 筍の發生多き年は暴風あり
- 一 五位鷺人家の藪、林等に巢ふ年は暴風あり
- 一 禾物東南に根多きときは大風の兆
- 一 力草「一名暴風草」と云ふ草あり根莖より一節を除き夫れより節

の数有る程暴風ありと知るべし

- 一 菰の葉の中に縮節一あるときは暴風一度二三之に準す且葉の中央にあるときは六、七月中より端にあるときは八九月頃と知るべし
- 一 蚊屋つり草の如き草あり之を風見草と云ふ此草多く生する年は秋暴風あり
- 一 鰻の早く下る(田より河へ下るを云ふ)年は暴風雨多し
- 一 麥の葉左巻なる年は暴風あり
- 一 乙鳥の大空に翱翔するは灘の荒なり
- 一 鱒、磯際へ寄るときは近日暴風海嘯あり
- 一 田植後十日以内に苗の根東方に向て蔓延するは其年大風の兆

一 沖の鳴るは暴風の兆
 一 春風の一夜暴れ
 一 沖に(東南)立雲あれば大風
 一 汐干の節磯土又は白濱和らく時は暴風雨あり
 一 大潮に暴風なし小潮の風は暴風に變することあり
 一 日出の時旭の兩脇に雲付けば大風
 一 春己卯の日に風吹けば其年大風あり
 一 陰曆六月三日月の澄みたるは其年秋暴風なく又三日月に雲掛り
 たる年秋暴風あり
 一 申酉の方に當て虹現はるゝ時は大風あり
 一 陰曆七月頃長雨あるを益ながせと云ふ其年は大風なし

一 寒中に爽多きときは大暑より處暑迄に暴風あり
 一 寒明きて后爽あれば二百二十日より二百三十日迄に暴風あり
 一 晴天に白雲登れば大風と知れ
 一 秋季 雷辰巳に在れば暴風多しと知れ
 一 雲早く消え又は雲の切れ方早きは大風の兆
 一 晴天の朝、巳寅より黒雲出れば近日暴風あり
 一 夏秋 良こがれば必ず大風
 一 朝日出前に東北紅く焦るれば近日大風
 一 日出前に東方恐ろしく焼け暫時に消え下るは暴風の兆
 一 日出前に東南に濃紅色にして一字形に焦るゝか夕焦の際株虹と
 稱へ南東に薄雲立つときは暴風の兆

一 夏秋辰巳より多度山に向ひカブ現はれたるときは大風雨(中島郡)
 一 夏季北東風吹き泥土の如き臭氣を帯ひ漸次正南に向ふは暴風(中島郡)

一 春風甚しき時は夏季暴風雨多し

一 餘寒甚しき時は残暑甚だしく残暑甚しければ暴風雨あり

一 渡り鳥來れば暴風なし

一 夏秋の交、棒虹を現すときは暴風雨の兆なり

一 路芝の葉に括り一つある年は大風一度其他二つ以上其數に準し

一 大風あり但し大風なき年は括りなし

一 朝、空中一面に淡紅色を帯るときは其日大風吹く

一 天一太郎、八專二郎、土用三郎、寒四郎に雨降らば該月亦是其季

節天候惡し

一 海水濁り赤泡立つときは浪荒れとなり暴風吹く

一 晴天に丑寅方位に當り立雲現るれば大風あり

一 箱、親竹より高く延びたる年は大風

一 鳥の高木に巢ふ年は大風なし又鳥、蜂の巢低き年は暴風あり

一 秋季卯、辰巳の方向にて濤鳴甚しきときは暴雨強風あり

一 夏季土用入後良に立雲あり巽に至れば大風あり北へ廻れば難

なし亦良より北を経て西に廻れば大風あり

一 土用波と馬腹は鳴る程よし(夏季土用中晴天に波浪立)

一 夏季土用後良より雲を生じ斜登して中天に消滅し或は坤

位に到達するも共に年内大風の兆

- 一 一つ雷りに油断するな(蓋し暴風雨の前兆)
- 一 西方伊良湖、日出村に方り海遠く鳴動するときは近日降雨又東方越戸村以東に鳴動すれば暴風雨あり但し暴風前には鳴響數所に移動す(渥美郡)
- 一 霖雨の節日没に際し日光殊に紅輝を放つは大風
- 一 鯨の飛ふ事あるときは暴風の威あり
- 一 海龜、平年より高き丘陵へ産卵するは海嘯高汐の兆候なり
- 一 土用ながせ吹けば秋季暴風なし
- 一 時ならざるに海燕乱飛するは暴風雨至るの兆なり
- 一 土用浪立ては秋季暴風なし(夏土用中ノ海鳴を云ふ)
- 一 蜂、總ての物の裏に巢を作る年は暴風あり

- 一 青蜻蛉多く出て、騒くは暴風なり
- 一 山雀の通過する年は大風あり
- 一 秋季百舌鳥啼けば暴風の終期なり
- 一 秋季彼岸前に山雀來る年は暴風あり
- 一 馬繁草(一名風吹草)に節ある年は暴風吹く
- 一 夏、霖雨あれば秋暴風あり
- 一 八九月頃曉天に東方より辰巳の方非常に赤く焦るゝは暴風の兆なり
- 一 四五月頃温度非常に低降するは暴風の兆なり
- 一 旭日紅輝を放ち後ち黒色に變するときは強風
- 一 雲、眞西へ行き又は薄雲西へ走るは暴風の兆

- 一 暴風前には三毛の雄猫毛に必ず濕氣を帶ぶ
- 一 大雨中蟹高所に上るは大風の前兆
- 一 寅の方位より吹き初めたる風は多く暴風となる
- 一 禾木(稻或はか)の葉に節状のものある年は暴風あり
- 一 連日雨降りて朝東天の焦るゝは暴風
- 一 赤雲太陽の上下にあるは大風の兆
- 一 蜘蛛巢を疊めば暴風近し
- 一 夏秋の候連朝(五更)東北方明かなるときは暴風雨ありと知れ
- 一 七八月頃連日東天切上ぐるは暴風雨
- 一 巽の方に虹に似たる紅色の帶状をなせる雲立昇るを俗に株と唱へ其の雲の下邊より消ゆるは大風、上邊より消ゆるは雨の兆

りと云ふ

- 一 東天の焦れは暴風即日雨
- 一 旭の青きは大風雨
- 一 辰巳風は暴れ強く戌亥風は好天となる
- 一 艮より坤の方へ薄雲走るを「前渡と云ふ」大風の兆
- 一 霖雨中に南海の鳴るは暴風の前兆
- 一 東より吹き起る風は極めて強く南東より起る風は甚しからず
- 一 暴風は満潮に吹き起り干潮に止み又強弱も満潮に強く干潮に弱し
- 一 夏土用前后に辰巳より吹く風を「ながせ」といひ后ち二日間風雨強く止まされば暴風となる

- 一 陰曆九月十二日 放生を過ぐれば暴風なし
- 一 八九月頃曉天北方より明け渡れば暴風雨他の時なれば雨
- 一 夜、南方の明けは大雨、北方は大風
- 一 海潮の大小繁く打つは暴風雨(海東郡)
- 一 新竹の延良き年は大風なし
- 一 松の新芽長き年は大風なし
- 一 蜂、南東方に巢を懸くれば暴風なし又北西方なれば暴風あり
- 一 戌亥方に巾一尺程と見ゆる長き黒雲立つ之を「くじ」と云ひ近日に大風又は大雨あり
- 一 辰巳の方に巾三尺程長五六尺と見ゆる虹立つ之を株虹と云て大風雨あり

- 一 二百十日以後の暴風は空天に強き故農作物に障害少し
- 一 連日雨降りて朝東天の焦るゝは暴風
- 一 六月土用に沖の立雲は八月大風と云ふ
- 一 波濤の音(沖鳴)卯の方にあるときは大雨辰の方にあるときは大風巳より丑に當るときは西風に變す又辰より巳と變動するときは多く西風に變す(寶飯郡)
- 一 下り雲早く消ゆるときは大風と知れ
- 一 朝、濃虹は暴風起る
- 一 大風忽ち吹止むは必ず吹返し風の風あり漸次に止むは吹返しなし
- 一 燕、高く飛ひ來るは海上荒れ又大風吹く
- 一 赤崎嶺の陸地に群來するは暴風の兆

- 一 他所より乙鳥の多く来るは近くに暴風雨ありと知る
- 一 丑寅の方と未申の方に立雲相對するは暴風近し
- 一 鳴の山間に来るは暴風の兆なり
- 一 椿の葉に青虫巻くときは秋暴風の兆
- 一 東風吹きて雲足早きは必ず暴風雨あり
- 一 鳥の巢を低所に營むは大風なり
- 一 百舌鳥夏の土用中に鳴くときは秋暴風吹かず
- 一 丑寅風は荒れ強し(西加茂郡)
- 一 降雨中に南東の天涯切上りて晴れたるは大風

大雨洪水之部

- 一 晴天に雲、東山の裾を北方へ這ふは大雨(海東郡)
- 一 春雨にて洪水の時は夏季雨多し
- 一 朝雷に川越するな(大雨あり)
- 一 上り雲に霧あれば當日雨あり下り雲に霧深ければ大雨あり
- 一 戌亥の方に巾壹尺程と見ゆる長き黒雲立つ之を倍にくじと云ふ
- 一 近日に大風又は大雨の兆なり
- 一 春三四月に雷鳴する年は夏大雨あり
- 一 寒中雨多ければ夏土用大雨あり
- 一 三日月の下に横雲あるは大雨の兆なり
- 一 鳩鳴き尾長鳥来て鳴けは近日大雨あり
- 一 濱鳥来れば大雨あり

- 一 午後四時頃より降る地雨は強雨なり
- 一 蟻の床上に登ると多きは其年大雨あり
- 一 蟹床に上るは大雨の兆なり
- 一 沖島(海鳴)卵の方にあるときは大雨(寶飯郡)
- 一 晴天の夜蚯蚓出づれば大雨と知るへし
- 一行燈にけら虫の匍ふは大雨の前兆
- 一 鳥の憂啼は大風又は大雨の兆なり
- 一 けら虫家床に登るは大雨の兆
- 一 河蟬の杭或は葭の水際より高き所に産卵するは大雨
- 一 河邊の葦の葉に白の縮紋を多くなすは洪水
- 一 百舌鳥の巢、高き年は洪水あり

- 一 鼈堤の高き所に産卵する年は洪水なり
- 一 百舌鳥の食物に蛙を取り稍や貯ふるは翌年水害多き兆候
- 一 苗亦是葭にがい(黒色げん)の玉子を附る年は洪水あり
- 一 陰曆六月一日に雨降る時は池の菰、木に掛る之れ洪水の前兆
- 一 木曾川の水面に浮泡の多く流るゝは出水の兆なり
- 一 西より北東方に向ひ風雨強ければ木曾川出水す(中島郡)
- 一 水爬蟲(ちんぼ)の卵水邊の杭等に高く産卵せしときは洪水あり
- 一 蜻蛉又は蛙、家屋内に飛込むときは洪水あり
- 一 狐人家の屋根に子を産む年は洪水あり
- 一 水鶏の巢を陸上に営む年は洪水あり
- 一 松の緑り萎縮せし年は大洪水あり

雪之部

- 一 雲多けれども氷解けされば雪降らず
- 一 雪の早く消ゆるは又降雪近し
- 一 雪多きは翌年夏雨多し
- 一 冬南風吹けば三日目に降雪(海東郡)
- 一 冬日夕方に伊勢山焦かるゝは降雪(海東郡)
- 一 多度山に雪初めて降るときは一週間内に降雪す(海東海西郡)
- 一 鷓鴣の来て鳴くは初雪降ると云ふ
- 一 雀群集て餌に騒く時は近々雪降る
- 一 夏しけ虫の多く出るときは冬に至て大雪ありと云ふ

- 一 麥の生出しに足の長き年は雪多し
- 一 未申の風連日強きは雪となる
- 一 冬寒氣強くして俄に暖なれば降雪近し
- 一 鹿鳴き早く止む年は大雪
- 一 降雪の消えさるは再び降雪の兆(寶飯郡)
- 一 蕎麥豊作の年は大雪
- 一 寒中雪長く降り續くときは翌年雨多し
- 一 雪深き年は春雨多し
- 一 雀の羽叩き強くなさは雪降の前兆と知るべし
- 一 冬季西南方赤きは大雪
- 一 寒中北西の空焦るゝは雪降り

- 一 寒中沖風甚しきときは雪かんちゅうおきかげはなはだ
- 一 冬季未申の風強きは雪の兆なりとうき ひつじさる かげつよ
- 一 未申の方赤く焦るれば翌朝雪ひつじさる かたあか
- 一 冬季大に寒冷にして俄然温暖なるは雪とうき おほひ かんれい
- 一 弘法の摺り子木隠しこうぼうのすりこぎかく (陰曆十一月廿三日は必ず降雪するの意)

霖雨之部

- 一 霖雨の宵晴れなみあめ よひは
- 一 家根裏の竹に露を帯ふは霖雨やねうらのたけにつゆをもち
- 一 夏の降雨にして家内へ蛙の飛び込ときは長雨なりと云ふなつ かつ、 うち、 かへるこ
- 一 雷鳴して未申の方に入るときは霖雨となる又丑寅の方へ入るとらいめい ひつじさる ほう

- きは好天となるきはこうてん
- 一 五月日照は土用ごがつひでり (ケ)にて水年と云ふみづとし
- 一 梅雨は雷鳴して入り又雷鳴して明くと知ればいりゅう らいめい
- 一 蟻蟻穴を封鎖するは霖雨の兆なりあひりゅうあな ふうさ
- 一 彼岸の入りひがんに降雨あるは彼岸中雨日多しひがんちゅうあめのひおほ
- 一 彼岸太郎ひがんたろう (彼岸に入) 八専次郎やせんじろう (八專の入り) 土用三郎ちようさんらう (土用の入り) 寒四郎かんしろう (寒の入り) に降雨あれば其季節必ず雨多くして不順の兆なりりしり日
- 一 霖雨の際雨足立つ内は晴れさるの兆なりなみあめ さいあめあした
- 一 甲子降りきのいねふは七十五時降雨さきかうり
- 一 三日月の右偏傾きたる月は雨多し左偏傾きたるは旱なりかづき う へんかたむ
- 一 春風多く吹けば夏必ず降雨多しはるかぜおほ

一寒中に四回以上の雨あれば夏雨多し又七回以上降れば夏雨なし

一寒中多雨なるときは翌年夏季雨多し

一舊二月雨多きときは舊五月雨多し

一土龍殊更高き所を撰み栖息するときは霖雨の兆なり

一蜘蛛が巢を巻き取りたるときは霖雨の前兆

一生壁に露氣を持つときは長雨

一雷、沖(南)へ鳴り出つれば雨長し

一秋季、山(濃州多藝山江州)淡く見へ降雨すれば必ず長し

一西南多度山脈養老山に至る山の頂きに雲を冠り北へ上るは雨天打ち續き雨間に是を見れば則ち雲の前渡りと云ふ

一敷石、土臺石等の濕潤なるは霖雨の兆なり

一晝間雨降り夜間晴るれば霖雨なり

一夜雷は雨長し雨なくて鳴るは大風

一雷未申に入るときは霖雨なり

一庚申、甲子に雨降れば霖雨となる

一陰曆毎月廿八日に雨降れば翌月雨多し

一陰曆年始めの甲子の日に雨降れば其年降雨多し

一陰曆朔日三日廿八日に降雨すれば永し(六月朔日は殊に永く續く)

一春秋彼岸の入りに雨降れば永し

一山茶花の地上に向て咲くは雨多し

一月、二日目、三日目見へなるは其月風雨多し

一 三月廿日に雨降れば六月廿日迄は必ず雨降り勝ちなり又風吹けは風多く六月廿日九月廿日十二月廿日右に同じ即ち廿日を試むへし

一 朔日降り三日降る(三日雨を云ふ)

一 百足出つれば天氣陰濕となる

一 梅花の下へ向きて咲くときは夏雨多し

旱之部

一 陰曆四月頃旭日夕日共芒輝なく茫然として紅色を顯はすときは其後ち多く旱魃あり

一 月色連日赤紅なれば旱の兆

一 夏秋の際北方に立雲雷鳴するとあり必ず旱魃す(渥美郡)

一 太陽に暈あるは雨暈の紫なるは大旱

一 電光丑寅にあれば旱(愛知郡)

一 夕立の丑寅に収まるは旱(愛知郡)

一 三日月の右偏傾きたる月は雨多し左偏傾きたるは旱なり

一 旱の朝曇り

一 寒中に雨降らざれば翌年夏旱なり

一 初雪少きは翌年旱り

一 蚯蚓の道路へ跋ひ出つるときは照り續くなり

一 八專に雨降れば降八專といひ天氣なれば照り八專といふ何れも長く續くなり

一 入日の赤きは早なり

一 陰曆正月元日雨降れば春日照り霽あれば凶年なり

一 木曾川上流に毎夕雷鳴の遠く聞ゆるは早なり(丹羽郡)

一 日中に星の見ゆるは長早りと云ふ

一 毎日午前中無風にして午后壹時頃に至り南西の微風吹くは早なり

り(中島郡)

一 陰曆五月一日の降雨は馬鍬も代鞍も二階へ上げよ(后ち早り續)

雷雨之部

一 北方より来る雷は雨降らす南の方の雷は降雨す(海東、海西郡、愛知郡)

一 初雷の南に鳴る年は雨多し北は雨少し(海東郡、海西郡)

一 雷鳴の南海に入るは雨近し又長(げ)となる

一 埤より夕立起り巽の方へ入れは霖雨(海東郡、愛知郡)

一 朝雷に川越するな

一 梅雨中の雷鳴は晴れ近し

一 大暑の節農仕事するに際し手の指先きに皺のよるときは俄に雷雨あり

一 夏の天氣極暑にて蒸し熱きは雷あり

一 鬼門の雷鳴は鍋釜を破る(丹羽郡)

一 雷 東南に鳴れば霖雨霽れ西北にあるは雨なり(北設楽郡)

一 東雷は早のもとも西に廻れば雨となる(八名郡、北設楽郡)

一 北の夕立は十日て来る(寶飯郡)

一 北の夕立は十日て来る(寶飯郡)

- 一 北きたの夕立ゆうたて雨あめなし戌亥いぬひの夕立ゆうたて雨あめあり(寶飯郡)
- 一 雷電らいでんの戌亥いぬひに在あるは穩おだやか又辰己またたつみのへん邊まはに廻まはれは強風雨きょうふうう(寶飯郡)
- 一 辰己たつみの雷らいは馬うまの背せを分わかつ(其來る雷の急速を云)
- 一 雷鳴らいめい雪中せつちゆうにあれば百日ひゃくにちの晴はれ
- 一 雷鳴らいめい丑寅うしとらの方ほうへ入いれは晴天せいてん續つく
- 一 電光でんくわう乾かんに見みゆれば降雨かうりゅうす
- 一 山林さんりんに大材だいざい多おほき土地ちは夏季かき夕立ゆうたて多おほし
- 一 天氣てんき朦朧もうろうとして蒸熱むじあつきは夕立ゆうたて
- 一 松まつの緑みどりり長ながく出いる年としは雷鳴らいめい多おほし
- 一 西南せいなん夕立ゆうたては即座そくざに來きたる
- 一 良うしろ夕立ゆうたては雨あめなし

- 一 秋季しゅうき土用とちゆう中雷ちゆうらい北方ほくほうに收おさまれは冬季とうき雷氣らいけなし又收またおさまらされは雷氣らいけ
- 一 屢しばしばは雨あめを降ふらす
- 一 百舌鳥ひゃくせつ蛙かへるの類るいを餌えにせん為ため樹木じゆもくの先まきに插置さしおく年としは大雷雨たいらいうあり
- 一 秋雷あきらい南東なんとうに收おさまれは翌年よくねん夏季かき降雨かうりゅう多おほし
- 一 猿投さなげ夕立ゆうたて雨降あめふらす(知多郡)
- 一 北夕立きたゆうたては七日かへ經あめふされは雨降あめふらす

地震ちしんの部ぶ

- 一 霖雨りんうの後のち晴はれ穩おだやなれば地震ちしん
- 一 旭日あさひの淺黄色あさぎいろ又または月色つきいろ赤あかく星光せいくわう冴さゆるは地震ちしんあり
- 一 天地てんち朦朧もうろうとして蒸熱むじあつきは地震ちしん

- 一晩春冷氣數日に亘るときは地震ばんしゆんれいきすじつわたるときはちしん
- 一雉子忽ち啼けは地震の兆おたまたなはちしんきざし
- 一冷氣を催すは地震の兆れいきもよほちしんきざし
- 一薄曇りにして風なく極めて長閑なるときは地震ありと云ふうすぐもかぜきほながかるときはちしん
- 一地震して雉子啼くときは震返しなし啼かさるときに震返しありちしんきじなゆりかへななゆりかへ
- 一地震は凡て天氣の變り目に多しちしんすべてんきかはめおほ
- 一雨中の地震は晴天となり晴天の時は雨となるうちちしんちしんせいてんときせいてんあめ
- 一四季共に非常に冷氣なるは地震の兆きともひじやうれいきちしんきざし

雑之部

- 一三月の月蝕は米貴し四月は五穀實らす九月は凶年くわつげつしよくこめたつごくみのかくわつごくみのくわつきやうねん

- 一霜多して曇るを霜折れと云ふしもおほくくもしもを
- 一春降雪多き年は麥作稔り少しはるかうせつおほとしむぎさくみのすくな
- 一雷鳴多き夏は豊作らいめいおほなつほうさく
- 一初秋頃に降雪多きときは翌年豊作はつあきころかうせつおほよくねんほうさく
- 一春雨哀れに降り冷なるときは草木榮へず秋雨長閑に降り蒸熱はるさめあはふみさうしくそうもくさかじやうのながかにふむしあき
- 一きは強風きやうふう
- 一雪は豊年の花なりと云ふゆきほうねんはななりと云ふ
- 一立春の降雪は豊年、降雨は早、嚴霜は人を疫す、曇れは作物に蟲害ありたつはるかうせつほうねんかう、ひでりげんそうひとをえきくもはさくもつちうがい
- 一夏至の日、北風は寒暑不順、南風は吉、東風は五穀豊熟、西風は秋雨多しげじひきたかせかんじよふじゆんみなみかせきつひがしかぜこくほうじゆくにしかせしやうおほし(海東郡)

- 一 殘暑烈しきは秋虫を生すさんしよはげ あきむし せう
- 一 初夏に雷鳴あるは豊年しよか らいめい ほうねん
- 一 春雪多きは麥作悪しはるゆきおほ わぎさくわる
- 一 寒中雨多ければ翌年作物悪し又寒中暖かなれば夏蟲類多しかんちゆうあめおほ よくねんさくもつわる またかんちゆうあたゝ なつむしるるおほ
- 一 夏季の土用明きに霧早く降るときは冬季の霜早しと云ふかき どのようあ きりはや ふ とうき しもはや
- 一 寒中温暖なれば夏季涼しかんちゆうおんだん かきすい
- 一 (地)九は病ひ五七は雨に四つ早り六つ八つなれば風と知るへしち ぬやま やま ちゆめ ひて ちかしば きた まへ ひがしかぜあめはげ のちみなみかぜ かは
- 一 高潮の來る前には東風雨烈しくして后南風に變るものなりたかしほ きた まへ ひがしかぜあめはげ のちみなみかぜ かは
- 一 枇杷の花多き年は麥作稔るびは はなおほ さい わぎさくみの
- 一 梅の花多き年は米作稔るうめ はなおほ さい べいさくみの
- 一 夏、西風吹けは忽ち作物に虫害を生す(丹羽郡)なつ にかぜふ たたまさくもつ ちうがい せう (たにわの)

- 一 寒中に雨降れば夏虫少しと云ふ又寒中に雨多きは夏雨も多しと云ふかんちゆう あめふ なつむしすくな い またかんちゆう あめおほ なつあめ おほ
- 一 梅の花下へ向て咲く年は豊年の瑞なりうめ はなした むひ さき さい ほうねん さい
- 一 田霧麥地震と云ふとあり田に霧を好しと云ひ麥に地震を好しと云ふたぎりむぎぢ しん い た きり よ い わぎ おしん よ
- 一 秋の南風は綿に虫付なり夏の西風は田畑に虫付なり(北設樂郡)あき みなみかぜ わた むしつく なつ にかぜ たはた むしつく (きたせつらく)
- 一 枇杷麥梅田と云ふとあり枇杷能く實るときは麥作よく梅多く實るときは稻作よしびは わぎうめだ い びはよ みの わぎさく うめおほ みの りんげく
- 一 正月元日雨降れば春旱、霧あれば凶年しやうげわつぐわんじつあめふ はるひでり きり きようねん
- 一 冬雪の多き年は翌年木綿能く笑むふゆい き おほ さい よくねんき わたよ お
- 一 陰曆八月望日、月朦朧たれば翌年麥收穫多しと云ふいんれき ぐわつぱうじつ つきもうろう よくねんむぎしうくわくおほ

- 一 冬大根に花咲年は翌春穀類價格下落すと知るべし
- 一 梅の花咲き乱るゝ年は六月照りにて田方豊熟と云ふ
- 一 春彼岸の中日に天氣好き年は綿作充分なり
- 一 三月三日日和好き年は氣候不順なりと云ふ
- 一 鱗形の雲空に多きときは大漁の兆なり
- 一 雪の早く降るは豊年の兆なり
- 一 冬季霜多く降りし朝は日中に至り暖氣あり
- 一 夏至に至り西南風吹けは六月に至り大暑と知れ
- 一 冬至に南風あれば翌年旱なり
- 一 寒雷は飢饉のもと
- 一 霜多くして曇り生ずるを霜やけと云ふ

- 一 雀の諸所に群噪すれば凶年の兆
- 一 鼠の去て來らざるは火事の前兆なりと云ふ
- 一 鰯の大漁は豊年なり
- 一 寒中降雪多ければ夏虫類少なし
- 一 冬季降雪多きは翌年綿作豊年
- 一 秋の北雨長く續くを北別當と云ひ植物に害あり
- 一 春の社日に雨降れば豊年なり
- 一 寒の入り后第三日第九日に雨降るときは翌年必ず氣候順を得ると云ふ
- 一 百舌鳥の早く啼く年は霜早し
- 一 寒中暖和の年翌年諸々に虫類多し

- 一 寒中嚴寒の翌年は豊作なりと云ふ
かんちゅうげんかん よくねん ほうさく
- 一 春雨多く降れば昆虫多し
はるさめおほ ふ こんちゅうおほ
- 一 冬至に躑躅花盛に咲は麥作悪しと云ふ
とうじつ つつじ はなさかり さく めくわくわる
- 一 春より雷鳴多き年は虫類少し
はる らいめいおほ さいし むしるすくな
- 一 五月雨少くして快晴の年は秋作不熟
さみ だれすな くわいせい さいし あきさくかじめく
- 一 しらはへ多く登るときは洪水あり
かんちゅうれんじつはれ おほ のぼ こうすい
- 一 寒中連日晴なれば翌年雨少なし
かんちゅうれんじつはれ よくねんあめすくな
- 一 寒中に天氣不良なれば翌年は凶なり
かんちゅう てんきふれう よくねん きやう
- 一 群鳥家邊に飛鳴するときは天災の兆なり
ぐんあかへん ひめい てんさい きたし
- 一 八十八夜の別れ霜(降霜も凡そ此時)
や わか しも 候迄なるを云ふ
- 一 二百二十日以後は大風と雖とも高くして作物に害なしと云
か いご たいふう いへ たか さくもつ がい ない

- 一 土用明きのござんざ(晩夏初秋頃陰晴)
どようめいきのござんざ 常なきを云ふ
- 一 秋に藁の多く生ずるは米穀多收の兆と云
あき まつだけ おほ せい べいこくたしう きざし
- 一 稲の糲(糲は稲の外皮に黒)ある年は收穫多し
いね かうじ 糲は稲の外皮に黒 ある年は收穫多し
- 一 寒三十日の中に霧あれば小麥の收穫少なし
かん さんじつのうち きり こむぎ しょうくわくすくな
- 一 霧は蕎麥に利ありて綿に害あり
きり そば り わた がい
- 一 梅の實を結ふ事多ければ米宜しと云
うめ み ます こむほ こめよろ
- 一 小寒の始めに水一升程を器に入れ密閉し目方を驗し置き立春の日其重量を増すときは其年雨多く減するときは早りするなり
い そのがうれう ま そのさしあめおほ げん ひやく

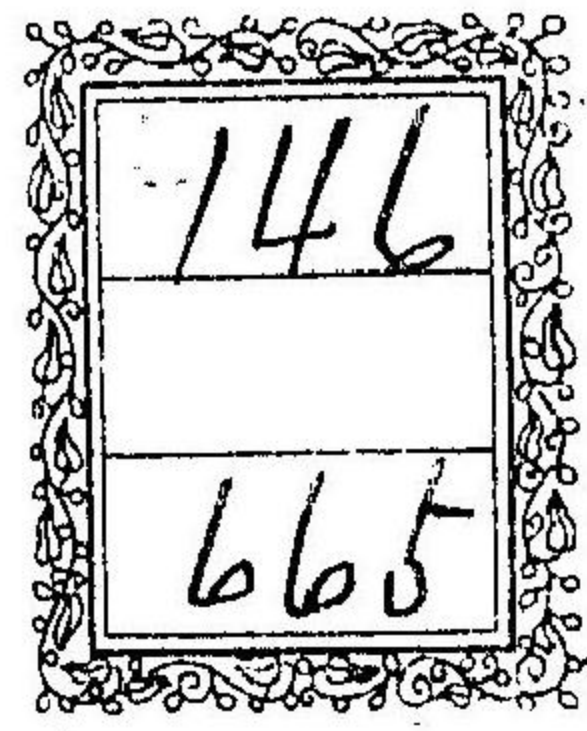


明治三十四年十一月廿一日印刷
明治三十四年十一月廿六日發行

愛知縣名古屋測候所

印刷所 英比貞造

名古屋市榮町十一番地



146

665

